

斑目春樹（原子力安全委員会委員長）

①：「非常用ディーゼルが 2 台同時に壊れて、いろいろな問題が起こるためには、そのほかにもあれも起こる、これも起こると、仮定の上に何個も重ねて、初めて大事故に至るわけです」「何でもかんでも、これも可能性ちょっとある、これはちょっと可能性がある、そういうものを全部組み合わせていったら、ものなんて絶対造れません。だからどっかでは割り切るんです」

（川村湊『福島原発人災記』現代書館より）

「すべての電源が喪失するようなことを想定しては、原発はつukれない」

（「週刊現代」4月16日号より）

「割り切らなければ（原発の）設計ができない。割り切り方が正しくなかったことも十分反省している」

（3月22日参議院予算委員会）

■■絶対安全な原発は、絶対につukれないということ。

②：「放射性物質は海で希釈、拡散される。人が魚を食べてもまず心配はない。」

（「週刊現代」5月21日号より）

■■こういう無責任な放言をどうして言えるのか？！

食物連鎖や生体濃縮があるのは常識ではないか！

松本義久：（東京工業大学准教授）

「遺伝子という〈お守り〉があるから大丈夫。精子は又新しく再生される。（乳児にも300ベクレル以上の水を飲ませても）全然大丈夫」

（3月・4月 テレビ朝日より）

■■ひどい発言、論外！